

寺内好右衛門家の文化財

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)

▲源通上人絵像
(来迎寺蔵)▲源通の代、好右衛門
門造立の結界石
(来迎寺)▲源通上人
之塔
(来迎寺)▲淡交自休
大徳之塔
(丹南3丁目・来迎寺)▲「淡交自休」[源通
和尚]尊霊の位牌
(寺田修二氏蔵)▲宝永元年「淡交」の扁額
(北新町1丁目・寺田修二氏蔵)

向井村庄屋・自休軒安林の足跡
墓の発見、来迎寺源通との血縁

江戸時代の宝永二年(一七〇五)

十一月、布忍神社(北新町二丁目)に
布忍地方の八つの情景を色彩で描き、
漢詩や狂歌・俳諧などを書き添えた
「布忍八景」扁額が奉納されました。約
五〇cm×二mのケヤキ材四枚に二景
ずつ書かれたものです。そのうちの
「竹林黄雀」「電池白鷗」の扁額の裏面
に願主である近隣の庄屋や僧侶など
二十八名の名前が記されています。そ
の中心人物が、丹北郡向井村の庄屋で
あつた寺内好右衛門でした。好右衛門
は自休軒安林という雅号を持ち、俳
諧一句の他、廻文(上から読んでも下
から読んでも同音の俳諧)を八句も奉
納し、技能に長けていたことがわかり
ます(「歴史ウォーク」7)。

好右衛門の生家は、布忍神社前の西
除川の宮橋を渡った下高野街道沿い
東南側の現在の寺田敏子さん宅です。
重厚な長屋門や土蔵、クスの大木が今
も残っています。好右衛門は庄屋とし
て村政に関わっていました。元禄
七年(一六九四)に辞し、自宅の北側
に隠居家を建てました。それが寺田
修二さん宅で、享保年間(一七一六)
三五ごろの遺構が残る古民家です。

修二さん宅には、好右衛門が六〇歳
の宝永元年に「淡交」と題銘を大書き
し、五十六歳ごろに完全に隠居を決め

た心境を記したケヤキ材の扁額が掛
けられています(「歴史ウォーク」96)。

好右衛門は享保四年(一七一九)正
月八日、七十五歳で亡くなり、「淡交自
休大徳」と戒名がつけられました。仏
壇にはその位牌が祀られています。位
牌は好右衛門を最初にして、延享二
年(一七四五)七月十日に没した「融山
上人源通和尚」など三名、計四名が
まとめて見られます。

私は、好右衛門の墓の所在が気
なっていました。数年前に敏子さんか
ら寺田家のもととの檀那寺である
融通念佛宗の来迎寺(丹南三丁目)に
あることを教えていただいたいまし
たが、墓所をまとめた時、来迎寺山
門前の如来塔に上げられたというこ
とでした。長年、探していましたが、
この度、松原市教育委員会と元興寺
文化財研究所のご協力で、難段に積
み上げられた塔の最上部にあること
がわかりました。花崗岩の無縫塔で、
高さ五九・五cm、幅二九cm、奥行二九
cmを測ります。正面に「淡交自休大徳
之塔」とあります。没年などは記され
ていませんが、位牌の表記と同じです。

好右衛門は、元禄九年(一六九六)
九月には来迎寺山門前に結界石を建
てています。花崗岩製で、正面に「不
許酒肉五辛入寺門」とあり、裏面には
「棋陽融通本山四十六代賜紫沙門大
通上人手書／河内州丹南郡来迎寺第
九世住持融山源通代造立之主」

同州丹北郡・布忍村住人／寺内好右
衛門」と刻まれています。

好右衛門が、来迎寺九世住持である
源通の時、本山の大念佛寺(大阪市平
野区)四十六世の大通が手書きした結
界石を造立したのです。

なぜ、布忍の向井村庄屋だった好右
衛門が来迎寺に「酒を飲んだり、肉を
食べた人は寺に入ってはいけません」
という結果石を建てたかという、源
通が好右衛門と同じ血縁関係にある
寺内家出身であったことが考えられ
ます。源通は延享二年七月十日に亡く
なっており、修二さん宅に好右衛門と
並んで位牌が祀られていることは先
に紹介しました。

源通は、大念佛寺中興の祖といわれ
る大通の弟子です。来迎寺では再中
興の祖とされ、三十年の長きにわたっ
て住持し、寺運を盛り上げました。来
迎寺には源通上人絵像や位牌が残さ
れています。

境内墓地に祀られる来迎寺歴代墓
所には源通の墓石もあります。花崗
岩製で、正面に「源通上人之塔」とあ
り、基礎正面に弟子が造立したこと
を刻しています。基礎石には「再中興」
したことや「丹北郡向井村／寺内氏之
苗裔」とあり、好右衛門と同家である
ことを示しています。

布忍の向井や丹南・来迎寺に残る寺
内好右衛門家の足跡は、松原の歴史の
中に深くとどめられるものなのです。